

書殿にして饑酒する日の倭歌四首

八七六番

天あまと飛とぶや 鳥とりにもがもや 都みやこまで 送おくりまをして
飛とび歸かへるもの

八七七番

人ひともねの うらぶれ居をるに 竜たつた田た山やま み馬ま近ち付かか
ば 忘わすらしなむか

八七八番

言いひつつも 後のちこそ知しらめ とのしくも さぶし
けめやも 君きみいまさずして

八七九番

万よろづよ代よに いましたまひて 天あめの下した 奏まをしたまはね
朝みかど廷と去さらずて